



LIONS NEWS

LIONS CLUBS INTERNATIONAL DISTRICT 330-A Vol.6 2022 June



いくら大きく華やかな存在でも地域と交わることによって意味を成すのであろう
撮影あらいだいすけ



ライオンズクラブ国際協会 330-A 地区



第 68 回 年 次 大 会 代 議 員 総 会



68th Annual Convention

2022年4月23日(土) 於: 東京プリンスホテル



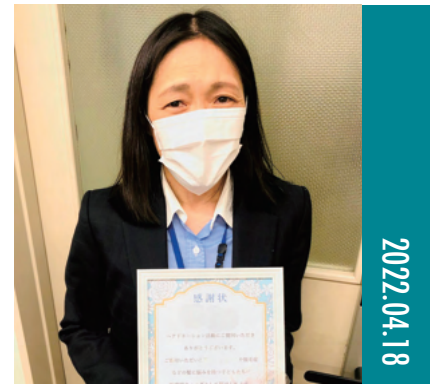


2022.04.10

東京シティライオンズクラブの森 環境保全アクティビティ



東京シティ LC
<https://330a.jp/club/20220411.html>



2022.04.18

「今、私ができること」



東京マリア LC
<https://330a.jp/club/20220418-1.html>



2022.04.16

靖国神社清掃活動



法政 LC
<https://330a.jp/club/20220418-2.html>



2022.04.08

消防署少年団育成支援



東京麻布 LC
<https://330a.jp/club/20220421.html>



2022.04.20

港区 子ども食堂



東京麻布 LC
<https://330a.jp/club/20220425-1.html>



2022.03.24・04.02

ウクライナ難民支援募金活動



東京赤坂 LC
<https://330a.jp/club/20220425-2.html>

Club Activity

クラブアクティビティ



2022.04.24



2022.04.25

「照姫まつり

薬物乱用はダメ・ゼッタイ!



東京マリア LC

<https://330a.jp/club/20220428.html>

子ども食堂支援



東京麻布 LC

<https://330a.jp/club/20220430-8-2.html>



2022.04.11 - 15



2022.05.04 - 05

献血奉仕活動



東京麻布 LC

<https://330a.jp/club/20220430-9.html>

ハワリンバイヤル(春祭り)



東京光が丘 LC

<https://330a.jp/club/20220510.html>



2022.05.16



2022.03.24・05.07

埼玉県 PCR 検査等無料化事業 草加谷塚コロナ検査ステーション



5R 合同

<https://330a.jp/club/20220516-1.html>

点字ブロックを守ろう♡ チャリティーコンサート



東京けやき LC 花みずぎ支部

<https://330a.jp/club/20220516-2.html>



2022.04.19

「食育」基本の「き」勉強会



東京マリア LC

<https://330a.jp/club/20220516-3.html>



2022.05.14

JR 昭島駅北口ロータリーでの献血活動



東京昭島 LC

<https://330a.jp/club/20220516-4.html>



2022.05.14

青少年健全育成

「ツリークライミング体験会」



2R(19クラブ)

<https://330a.jp/club/20220517.html>



2022.05.17

献血奉仕活動



東京調布 LC

<https://330a.jp/club/20220518.html>



2022.05.14

ウクライナ難民支援街頭募金



東京八王子高尾 LC

<https://330a.jp/club/20210523.html>



2022.05.13

食育講座第二弾 L 山本弥恵子

「体調を整える食育」



東京マリア LC

<https://330a.jp/club/20220525.html>



2022.05.18

12R 親睦合同ゴルフ大会及び 12R1Z5 クラブ合同例会



12R1Z5

<https://330a.jp/club/20220530-1.html>



2022.05.21

「えどがわ子ども食堂」へ、 駄菓子を寄付



東京江戸川南 LC

<https://330a.jp/club/20220530-2.html>



2022.05.29

神社 de 献血 in 桜神宮 (今期 2 回目)



東京玉川 LC

<https://330a.jp/club/20220530-3.html>



2022.05.05

献血アクティビティ報告



東京カレー LC

<https://330a.jp/topics/20220602.html>



2022.06.05

江ノ島ビーチクリーン



東京マリア LC

<https://330a.jp/club/20220609-2.html>



2022.06.04

佳子内親王殿下御臨席のご報告



【第20回記念東京都障害者ダンス大会ドレミファダンスコンサート】

表参道 LC

<https://330a.jp/club/20220603.html>



2022.05.28

チャリティーカレーパーティー



東京カレー LC

<https://330a.jp/club/20220613-1.html>



2022.06.12

東京シティライオンズクラブの森 環境保全アクティビティ



東京シティ LC

<https://330a.jp/club/20220613-2.html>



2022.06.11 - 12

ウクライナ人道支援募金



東京赤坂 LC

<https://330a.jp/club/20220614.html>



2022.06.11

よみがえれ井の頭池整備事業



東京吉祥寺 LC

<https://330a.jp/club/20220620-1.html>



2022.06.19

ウクライナ避難者支援のための募金活動



東京レスキュー LC

<https://330a.jp/club/20220620-2.html>



2022.05.15

観劇会



東京田無 LC

<https://330a.jp/club/20220621.html>

Cabinet・Committee

キャビネット・委員会

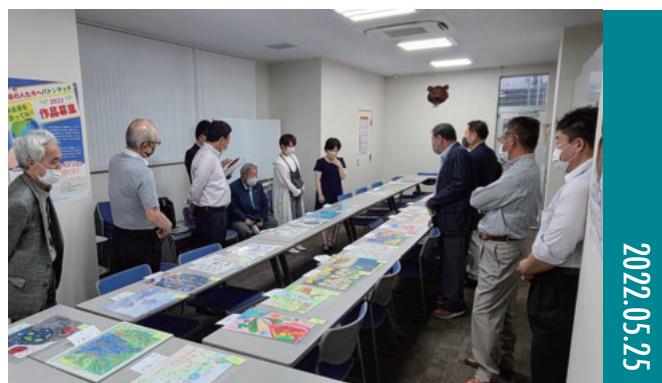


2022.06.06

自然災害発生時における災害ボランティア支援
に関する協定締結調印式



<https://330a.jp/committee/20220609.html>



2022.05.25

“未来の人たちへバトンタッチ 2022”
入選のお知らせ



GST 環境保全委員会

<https://330a.jp/committee/20220601.html>



2022.06.06

いまこそ君の出番だ 高校生の参加募集中！
第17回青少年英語スピーチコンテスト開催のご案内



<https://330a.jp/committee/20220606.html>



Let me hear what you think

ご意見伺い隊



ご意見伺い隊の活動(2年目) L 進藤義夫

進藤期に引き続き、中井期も「ご意見伺い隊」の活動を行いました。各クラブの例会やアクティビティに訪問し、「自分の意見は言わない」「ただひたすら意見を伺う」というルールのもと、各クラブからのご意見を伺うという活動です。そして、毎月「研修会」を行い、活動について共有していました。隊員は総勢18名で、主に前期お伺いできなかったクラブに訪問することを目標としましたが、今期もコロナ禍のため、訪問できない時期も長くありましたことは残念です。

それでも、各クラブから様々な分野にわたってご意見を頂戴しました。会員増強からキャビネット運営、さらにはご意見伺い隊の活動そのものについてなど、今期いただいた意見を表にしてご紹介したいと思います。

また、2年間の活動で隊員も様々な気付きを得ております。全員ではありませんが、各隊員の感想をいくつか抜粋してご紹介します。

●A 隊員：ご意見伺い隊を2年間活動させて頂きました。例会に参加する動機はクラブの会員に会いたいと思うことが一番大切であると実感しました。また会いたいと思えるクラブ作りが出来れば出席率も向上し会員も増加すると感じました。

●B 隊員：活動は1年間でしたが、多くの学びを頂きました。実際、例会訪問させていただいたところ、各クラブごとにいろいろな顔をお持ちでした。クラブのアクティビティも多種多様ですし、例会の開催スタイルもさまざま、歴史の長いクラブ新しいクラブ、メンバーのご年齢も若い方からご年配の方まで幅広くいらっしゃる。また、ご意見伺い隊の研修会では、隊員が、各クラブの例会を訪問され、クラブの一番のご自慢のポイント、アクティビティ活動、メンバーがどのような気持ちで活動をされていらっしゃるか、キャビネットに対するご要望ご意見等を感性豊かにレポートに簡潔にまとめて報告をしていました。とても興味深かったのが、皆と楽しく奉仕活動ができることが一番の喜びであり、毎月の例会に来ることが待ち遠しいくらい楽しい、という楽しみながら絆を深めているクラブのお話です。研修させて頂きとても楽しかったですし、感謝の思いで一杯です。

●C 隊員：「ご意見伺い隊」として2年にわたり22クラブの例会訪問を行いました。自分のライオンズ活動の中で一番の実りをもたらした体験だったと思います。ライオンズは自クラブ主体で、各クラブそれぞれ全く異なる色があったことは言うまでもありませんが、ただ1つだけ、どこにも共通して言えることがありました。それは、例会に参加しているメンバーは、自分のライオンズクラブが好きで、毎月、このチームの仲間と会うことを何よりも楽しみにしている、ということ。今まで私は、クラブ活動のアクティビティがまずあって、そこで信頼関係や絆が生まれると思っており、だからこそ奉仕活動を半ば強引にでもやらないと始まらないと思っていましたが、それは勘違いでした。

実は一番大切なのは、自クラブに集うメンバーの人柄が好きでその仲間にいることが心地よいと感じること、例会でメンバーと会うその時間が何よりもかけがえの無いと感じていること。それが根底にあって、初めて一緒に奉仕活動ができる。だから、心地よい感動をシェアできるとわかりました。縁あって袖触れ合った仲間や尊敬する先輩、大事な仲間。結局、自分が魅力的な人間になること。これがライオンズクラブの一番の活性化に繋がるポイントだと悟りました。クラブ例会訪問をお許し頂いたクラブの皆様、本当にありがとうございました。深く感謝申し上げます。

●D 隊員：ご意見伺い隊の活動としては、事前に資料やネットで訪問するクラブの状況を把握し当日は例会の1時間くらい前に会場へ行きました。最初は緊張するばかりでしたが、回を重ねていくうちにようやく、ご意見を伺わせて頂けるようになりました。「ご意見伺い隊」を離れても、この経験を活かし、ライオンズの一員とし、自クラブ、そして自分の為にクラブ訪問を続けて行きたいと思えます。良い経験をさせて頂きありがとうございました。

このように、隊員たちが各クラブを訪問させていただき、いろいろなご意見に触れることができたことで、それぞれのライオンズライフにとって学びとなったようです。私からも訪問をお許しいただいた各クラブの皆様へ深く感謝申し上げます。「ご意見伺い隊」としての活動は2年間でもとりあえず終了となりますが、「例会訪問」「皆様のご意見をうかがわせていただく」というスキルを身につけた隊員たちが、また別のメンバーを誘ったりして、今後も皆様のクラブを訪問させていただくことがあると思えます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

東京世田谷 LC L 進藤義夫

Let me hear what you think

ご意見伺い隊

■01 GLT セミナー

ZOOM 主催者セミナーは凄く参考になった。ZOOMを全く使えなかった自分は、3回セミナーに出て、教わった通りにやったら、本当にホストできるようになった。すごく有意義なセミナーだった。これからも良いセミナーをやってほしい。

■02 GMT 会員増強

現在、メンバーが減少しているのは、ライオンズ自体に魅力がなくなっているせいもある。

■03 GMT 会員増強

会員数の減少は、一言で言うと、ライオンズクラブが魅力なくなったから。女性メンバーが入るとクラブが活性化する。他の団体で半分以上が女性という団体は、勢いがあり元気がある。

■04 GMT 会員増強

クラブを魅力的にするには、人数を多くするしかない。一桁クラブは合併すること、女性を沢山入れること。女性を入れると会につやが出てくる。男性も楽しくなる。

■05 GMT 会員増強

ライオンズクラブには、こんなにすごい人がいるんだ!ということをもっとアピールするほうがいい。

■06 GMT 会員増強

入会時に「ライオンズクラブに入会すると仕事が広がる」と言われて入会する人は思惑と違うことに気づきすぐ退会する。同じように年会費も安い方が入会しやすいと言われるが、そういうクラブは、折に触れて少しずつお金を払っていくので徐々に出費が増しているの、金銭的にも思惑と異なる。

■07 GMT 会員増強

ただ、増やせ、お金増額しよう、だけでは以前と同じやり方。

■08 GMT 会員増強

ライオンズクラブは量で無く質だ。安易に「会員増強」「会員増強」と騒がないで欲しい。

■09 GST 奉仕活動

人数少ないクラブが多いのでゾーン単位でアクトしている。奉仕活動は謙虚にさりげなくやるべきです。

■10 GST 奉仕活動

奉仕活動は目立つためにやるものではない。決して奢らずに。身の丈に応じたことを静かにコツコツと継続してやるべきだとおもう。

■11 PR PR

330-A 内で、各クラブの PR をしてほしい

■12 運営 CAB 運営

金の使い方を明確にしてほしい。今までもキャビネットの不明会計に対して、最終的に答申書が届いていない。

■13 運営 CAB 運営

ガバナーの施策が1年で終わるのがもったいない。良い企画の時は、次の年も継続してほしいと思う。いっそ、ガバナーの任期を2年にするとか。

Let me hear what you think

ご意見伺い隊

■14 運営 CAB 運営

サイバー攻撃、ウィルスメールが拡散したが、それに対するキャビネットからの示唆が欲しかった。

■15 運営 CAB 運営

クラブ主体で活動しているので、キャビネットに対する思いは、あまりないが、キャビネットからのリクエストはちゃんとしている。ただ、あまり揉めない様に、問題ないようにキャビネット活動をおこってくれれば、それでいい。

■16 運営 CAB 運営

キャビネットからのメールと提出物が多すぎます。

■17 運営 CAB 運営

キャビネットの上から目線が嫌い。

■18 運営 CAB 運営

歩の無い将棋は将棋にならない。歩が有って成り立っている。各クラブを歩として、歩が活躍できる運営を考えて欲しい。

■19 運営 クラブ運営

メンバー数が10名以下の例会になって来た場合は、合同例会などして、例会参加メンバー数を多くした方が良い。その方が例会でいろんな人と会えて、楽しい。

■20 運営 クラブ運営

年会費は適正金額というものがあるはず。年会費の適正価格はいくらなのか。20 万くらいか。合同事務局を使うと経費が半端ない。

■21 運営 クラブ運営

合同事務局は不要。個人のアルバイトに変えたところ、事務局経費が 1/3 になった。

■22 運営 クラブ運営

ガイディングライオンが「こんなクラブは国際本部に言って解散させる」と言っているが、悲しくなるので、やめてほしい。

■23 運営 クラブ運営

マンネリ化した例会、縮小化されたクラブの例会を盛り上げてほしい。

■24 運営 クラブの独自性

クラブ運営は、クラブの独自性を重視すべきであり、キャビネットの方針に従うということばかりではいけない。キャビネットから降りてきた内容を一旦よく吟味するべきである。

■25 運営 選挙

昨今のガバナー選挙は情けない。選挙しない方向や規範を明確に厳しくしてはどうか。今の状態だと新入会員勧誘も、恥ずかしくてにくい。

■26 運営 選挙

ガバナー選挙について決選投票前に帰ってしまった代議員が多く、選挙管理委員会には止めるよう努力して欲しい

Let me hear what you think

ご意見伺い隊

■27 運営 ゾーン

ゾーン再編について、昔の区割りなど地域に沿ったゾーン割になっていない。説明もなかった。疑問に思う。

■28 運営 名誉顧問会

名誉顧問会は不要ではないか。この会があるからいつまでも勘違いして上にいるつもりになっている。選挙の時の怪文書にも出て来る始末。

■29 その他 伺い隊

伺い隊活動の発想、素晴らしい。これからも続けてほしい。

■30 その他 伺い隊

伺い隊の活動は、とても良い。こういうことをしてほしい。今後も続けてほしい。

■31 その他 伺い隊

当クラブよりご意見伺い隊に会員を出向させたことにより他クラブの情報を聞くことが出来て良かった。

■32 その他 伺い隊

ご意見伺い隊に来てもらって、緊張感が出て、例会が縮まった。肩書ではなく、キャビネットから誰かが来てくれるだけで盛り上がるから。

■33 その他 伺い隊

キャビネットで「例会もりあげ隊」を作れば良い。「例会訪問委員会」を作り キャビネットから各クラブの例会へ2人くらい廻れば賑やかに盛り上げると思う。



知って下さい音楽のちから



日時:2022年5月16日(月)14時00 場所:サントリーホール ブルーローズ

ご挨拶

330-A 地区キャビネットのほか GST 社会福祉・障がい者支援委員会、GS T 国際交流・アジア友好委員会、GMT 会員増強・維持クラブ合併委員会にご後援ご協力いただき、こころより感謝申し上げます。東京スバルライオンズクラブは音楽療法に力を入れております。現代人の疲れた脳に音楽が作用し、ストレスから解放させる力があり、特にクラシック音楽には強い力がごぞいます。全ての方に癒しの音楽と時間をお届けしたいという想いといろいろな方からのご期待に応えて活動を続けて行きたい気持ちでコンサートを開催致しました。東京スバルライオンズクラブのアクティビティー「音楽療法」という言葉はまだ余り耳慣れない言葉かもしれませんが、現代の疲れた脳やストレスには最も必要なものとして各国で取り組んでいるジャンルです。『知って下さい音楽の力』東京スバルライオンズクラブ一同、この社会貢献企画に力を注ぎ、皆様と幸せを分かち合おうと思います。音楽の力をどうぞお楽しみください。

東京スバル LC 会長 L 広瀬紫乃

ライオンズチャリティーコンサート「知って下さい音楽の力」5月16日サントリーホールブルーローズに於けるチャリティーコンサートは昼夜2回公演とも満杯のお客様から嵐のような感動の拍手を頂き無事終了いたしました。今回のコンサートはライオンズならではの形：暖かい心のこもったご奉仕精神をもって行われました。特に一般のコンサートには入れてもらえない障がいを持った方々、子供達も、ライオンズメンバーや演奏者、皆で工夫をし、同じ空間で皆と一緒に美しい至福の音楽を共有することができたことが大きな特徴です。これはヨーロッパでもなかなか行われたことのない試みで日本のライオンズクラブの優しさと実行力が海外でも評価され始めております。「音楽療法」とはまだ日本では聞きなれない言葉かもしれませんが。しかし近年音楽の力が科学的に証明され、様々な病気の治療、発達補助、痛み、脈拍血圧安定、免疫力向上、前向きな考えになる等素晴らしい効果がエヴィデンスとしてあがっております。この不思議な力を皆で体感できたのです。演奏家も今回のオーケストラは国際コンクール上位入賞者など、最高レベルの演奏家が趣旨に賛同して出演してくれました。演奏が始まると子供たちは動かないはずのおててをパタパタさせたり微笑んだり、最後まで喜んで聞いてくれました。演奏家たちも「このようにやりがいがある一つになれたコンサートは初めて、弾き終わって自ら感動に心が震えた」とのこと。アンコールの「G線上のアリア」ではすすり泣きの声もあちこちで聞こえました。ライオンズは新たな力「音楽療法」をもって益々社会貢献して行くでしょう。

斎藤 アンジュ 玉藻 (東京スバル LC)

ミニトーク：音楽療法の素晴らしさ

司会者：東京スバル LC 実行委員長 L 林 潤

対談者：みくりキッズくりにつく院長 日本小児科学会専門医 本田真美 様
一般社団法人 音楽療法普及協会 東京スバル LC L 斎藤 恵美子

記 録：デジタル推進・広報室 室員 L 三代勝之



L 林：本田真美先生のプロフィールを簡単にご紹介します。

東京慈恵医大を卒業し、国立小児病院で研修後、国立成育医療研究センターを経て、世田谷区で「みくりキッズくりにつく」を開業し、院長を務めております。

日本小児科学会専門医でもあり、医学博士でもあります。

本田先生のクリニックでは、子供達の発達サポート外来を受け付けており、実際に音楽療法の治療もおこなっております。本田先生と、L 斎藤のトークに加え、私が簡単にコーディネートいたします、どうぞよろしく願いいたします。

L 林：本日、クリニックの子ども達も音楽を聴きにいらっしやいますけれど、楽しみにしてらっしやいましたか。

本田先生：今日は6、7人の子ども達と一緒に参加しています。彼らは、「重症児」や「医療ケア児」と呼ばれ、生きていく上で少しサポートが必要な子ども達です。

例えば呼吸器を着けていたり、胃管に穴を開けていたり、小さいうちからそのように大変な思いをしながら、お母さんお父さんの愛情をいっぱい受けて育てられています。

ただ、こういった話をすると「かわいそうな子ども達」と思われるかもしれませんが、彼らのもつパワーはすごく人を惹きつけるところがあります。彼らが笑うと周りも自然と笑顔になり、私たち大人も毎日沢山幸せをもらっています。その中で、音楽療法を取り入れさせていただいて、音楽のちからというもの日々感じております。

L 林：どうもありがとうございます。L 斎藤 実際、今回のコンサートの前に、クリニックに何度か訪問し、先生とお話ししましたが、どんなご感想ですか？

L 斎藤：初めてお伺いした時、病院という感じではなく素敵なオブジェが並んでおり、アートのような印象を受け、そこにいる子ども達は目を輝かせていました。

この後ご鑑賞頂く音楽療法とは、ドイツやオーストリアをはじめヨーロッパでは当たり前に行われていますが、日本ではなかなか浸透されていません。それを少しでも、ライオンズの皆さまにお力添えをいただき、より目を輝かせる子供たちを増やせればと願い当イベントを企画致しました。

L 林：本田先生のクリニックには様々な専門の方が在籍され、音楽療法士さんもいらっしやるとお聞きしています。今回のコンサートをお聞きになるにあたって、スタッフさんや親御さんの反応はいかがでしたか？





本田先生：色々なサポートが必要な子ども達なので、なかなかこういった機会を日常のなかで取り入れることはとても難しいことですが、本日は看護師 4 名と私も来ており、世田谷区の上野毛からマイクロバスで来場しました。

来場するに当たり酸素を用意したりなど、何かあった時の医療準備も万全にしています。

子ども達も非常に楽しみにしており、当初は子ども達だけと思っていたのですが、親御さん達から「是非私たちも」とのお声も挙がり、今日は一緒に参加させて頂いています。

演奏中、大きな声を出すようなことがあるかもしれませんが、最近は「合理的配慮」あるいは「バリアフリー」という言葉が聞かれるのは当たり前になりましたが、まだまだ浸透していないのが実際のところで、やはり肩身の狭い思いをしている親御さんもおります。

今回このように「みくりキッズくりにつく」や子ども達をご覧いただき、こういう子達と一緒に楽しめる社会になるように願っています。

音楽を通じて、子ども達の成長を暖かく見守っていただけたらという想いでいっぱいです。

L 斎藤：すべての方に音楽をお届けしたいですね。どんな方とも聴ける音楽会を私は目指しております。ライオンズの皆さまに第一回をお届けできて、本当に心から嬉しく思っています。

本田先生：「音楽のちから」は痛みの緩和、心の安らぎ、あるいは音楽・楽器を通してのコミュニケーションなどが期待されています。ただ単に楽しむだけではなく、素晴らしい音楽に触れる、しかも生の音楽に触れることは、子ども達の発達支援だけでなく、私たち大人にとっても素晴らしい機会であると思っております。

L 林：子ども達が夏祭りの太鼓の音に合わせて手を叩いたり、どんどん音楽療法によって症状が緩和されたり、先生はそのような場面を複数見てらっしゃいますよね。

本田先生：本当に耳の聞こえない子達にも、実は音楽療法って効果があると言われていています。胎動で感じたり、骨導で感じたりすることもできると言われています。

聞こえなくても、弾くことができなくても、その空間にいただけで、十分な音楽療法の効果があるという発表があります。

L 林：実際に日本で音楽療法を用いた治療をやられていて、自由診療の範囲にはなっていますが、先生が今直面している課題など有りましたらお聞かせください。

本田先生：例えば医療のなかで、きちんとやるためにはエビデンスが必要となり、もっと研究が進んでいくことが必要です。しかし、東北大学や順天堂大学の医学部でも実際に音楽療法が取り入れ、勉強・研究されていると聞きます。これから更にこういった活動を通して、エビデンスを作りながら、このような機会を設けていただけると、私たちも医療者として、音楽療法の確立に貢献できるかと思っております。

L 林：音楽療法、まだスタートですけど、これから広げていくうえでどう考えていらっしゃいますか。

L 斎藤：私はダウン症のお子さんが上手にソナチネを弾けるようになるところを、夢みております。今日のオーケストラとそのお子さんがいつか合奏できる日がいつか実現できることを夢見しています。

林：音楽療法をもっと広げて行きたいですが、日本ではまだまだ珍しく、例えば音楽療法士は国家資格でもないため日本ではまだ生活もできないと聞きます。今後更に普及させるにあたって如何でしょうか？

斎藤：資格も必要だと思いますが音楽療法士でなくともできることはあります。例えば、今日の音楽にあわせてお子さんを揺すってみる、一緒に聴いてあげるなどでも良いと思います。しかも、音楽療法の良いところは副作用が全く無い点です。そして例えば、モーツァルトが苦手な方でも、脳内で処理されて身体に良いことが起こるそうです。これは一昨年の論文です、面白いですね。更には、手術室後に音楽室に入るケースも最近多くなっており、傷口が早く塞がるとか痛みも減少させるようで、音楽室を作る病院が増えております。

林：是非これからどんどん広めていきたいですね。最後に、先生のクリニックでは子ども達に対して音楽療法以外にも色々なことをなさっていると思いますので、簡単な紹介を頂けたら幸いです。

本田先生：私たちは世田谷区の上野毛にある小児科クリニック「みくりキッズくりにつく」で一般の小児科クリニックの他に、医療ケアのお子さん、発達障害のお子さんなど、「沢山の子ども達が障害の有無に関わらず、地域で安心して生活できること」ということを大事に開業しております。お近くにお越しの際には、是非見学にいらして下さい。



学生支部のインタビュー



インタビュー：東京新都心 LC シンバ支部 会長 L 河村 祥栄 / 会計 L 川崎 敦也 / L 木村 智美
ファシリテーター：L 坪坂 有純

自分が学んだことをお返ししたいと気持ち

L 坪坂有純 (以下、L 坪坂)：令和の時代、皆さんの学生時代は、新型コロナウイルス感染症の影響もあったと思いますが、学生の皆さんにとって、ボランティア活動とは。

会長 L 河村祥栄 (以下、L 河村)：ボランティア活動とは無縁の生活をしていました。自分さえ楽しければいい、自分さえ幸せでいられれば良いという感覚でした。縁あって、東京新都心 LC L 廣川貞雄 (以下、L 廣川：元会長・現在クラブ理事) から お話を頂き、1 年後には社会人にもなるので、世のため人のためではありませんが、自分だけではなく、自分以外の人にも幸福を届けられたらという思いで、ライオンズクラブに参加しました。

会計 L 川崎敦也 (以下、L 川崎)：大学に入ったときの目標として、何か新しいことに挑戦したいと感じていました。もともとボランティア活動に興味を持っていたということもあり、L 廣川よりお誘いを頂きました。自分からボランティア活動に参加するというのは、勇気が要ることですが、自分から参加してみようと思いました。

L 木村智美 (以下、L 木村)：河村会長が仰っているように、世のため人のためというところが大きく、自分が学んだことをお返ししたいと気持ちがありました。また、ライオンズクラブとして活動する事は、大学生にとってもボランティアをすることにメリットがあります。それは、就職活動などです。今は少子高齢化社会でもあり、人数を集めることも難しく、体力のある人材を得ることも難しいです。学生でそのような活動をしている人々を求めている団体も多くあります。そこをライオンズクラブで上手く繋げられたらいいという思いもあり、参加しました。

少しでも自分の器を大きく出来たら

L 坪坂 : 皆さんは私が学生だった頃には想像も付かないとてもレベルの高いことを考えられています。私の学生時代はボランティア活動をしている友人もいましたが、私はあまり興味関心がありませんでした。ライオンズクラブに入会してから、社会奉仕に目覚めました。L 河村はL 廣川からお誘い受けた時に、どのような奉仕活動に付いて興味を持たれたのでしょうか。これから大人になり、社会人になっていく上で、今まで興味がなかったボランティアに対して、どういった点で特に強く興味を持たれたのか教えて頂けますか。

L 河村 : L 廣川は、「世のため人のため」と再三仰っていました。また、感謝という言葉をよく述べられています。感謝を感じることは今までの人生でも多くありましたが、それを返せていない、貰ってばかりだと感じました。自分以外の人に利益が出るように、他の人の幸福のために動いて、しかもそれに生き生きと取り組んでいるL 廣川を見て、とても器の大きな人だと思いました。まだ自分という器は小さいと強く感じ、少しでも自分の器を大きく出来たらと思いました。



東京新都心 LC シンバ支部 会長 L 河村 祥栄

L 坪坂 : L 廣川の熱意が伝わったということですね。素晴らしいです。L 川崎にお聞きします。ライオンズクラブの話聞いたときに、どのようなボランティア活動をしてみたいと思ったのでしょうか。国際的な活動に興味があるのでしょうか。それとも、国内のボランティアに興味があるのでしょうか。どのような点に関心を持っていますか。

L 川崎 : ライオンズクラブについてあまりよく知りませんでした。L 廣川からお誘いを頂いた時に、ものすごく大きな団体に参加させてもらえるのだと感じました。新宿区を拠点としているので、新宿区が主な活動場所です。北海道に行って樹木の植樹をすることもあり、様々な場所で活動していると感じました。もちろん、海外など遠くに行つて活動したいと考えていますが、新宿を拠点とし、地域を盛り上げ、活性化に繋げていく事を第一の目標として考えています。

L 坪坂 : L 木村はどうでしょうか。今まで、様々な事を幅広く学ばれたというご自身の経験を生かし、私たち大人だけではカバー出来ない部分に目線を入れていくことを考えているのではないかと、先ほどのお話を聞いて思いました。之からライオンズクラブと一緒に活動していく中で、どのようなご自身の経験を生かしていけそうだと感じていますか。

L 木村 : 私が参加させて頂いたのは、子ども食堂の学生支援をさせて頂けるとお聞きしたからです。私がしてきた学習の方法や、海外で経験したことを教えられる場があったり、大学で話している方々と繋げてあげたりという事が出来るのではないかと思います。

子どもたちとイベントを通して仲良くなれたら

L 坪坂 : 3 名とも、学生時代やこれまでに経験してきたことがそれぞれ違いますが、各々が自分の得意なことや経験したことを生かして頂けるのではないかと思います。先ほど L 川崎が仰ったようにライオンズクラブはクラブごとに、地域に密着したボランティアを行っています。学生の目線から見て、どのようなボランティアのニーズがあると思いますか。

L 木村 : 子ども食堂だと思います。子ども食堂に訪問し勉強を教えるという事ではなく、少子化の影響で兄弟がいない子どもや、周りに頼れるお兄さん・お姉さんがいない子どもに身近なお兄さん・お姉さんのような存在になり、何か問題が起きたときに頼ってもらえるような存在になれたらと思っています。その中で、子ども食堂を知ってもらうために様々なイベントを開催したり、勉強を見てあげたりということをしてながら、地域での信頼関係を築いていければと思っています。

L 川崎 : コロナ禍もあり、子どもたちが運動不足になっていると思います。子どもたちが運動から離れていて、屋内でゲームをする子や、スマートフォンを使用する子が増え、あまり運動が出来ていない子どもが多いということが問題になっています。子ども食堂で食事を提供したり、勉強を教えたりすることもよいのですが、子どもが運動できるようなイベントを開催し、子どもの健康を促進していけたらと思っています。子どもたちと触れ合い、子どもたちの親密度が高まればよいと思います。いきなり私たちが行って勉強を教えるというのは壁ができてしまうと思うので、イベントを通して壁を取り除いて仲良くなれたらと考えています。



東京新都心 LC シンバ支部 会計 L 川崎 敦也

L 河村 : 新宿区には、そもそも遊ぶ土地・公園が少ないと思います。私が小学生だった頃と今の地域を見渡して比べてみると、建物が増え遊ぶスペースがどんどん限られていっています。SNS の発達もあり、遊び方が分からない、そもそも遊ぶ場所がないという場合が増えてきていると思います。公園でサッカーしていると、ボール使用禁止だから駄目だというような制限もある時代です。遊び本来の楽しさ、きっかけを子どもたちに与えたいと思います。体を動かしたり、外で遊んだりすることは絶対的に良いことです。きっかけや第一歩をサポートできればと思います。

SNS を使って認知度を上げる

L 坪坂 : きっかけは大切だと思います。「きっかけ」提供は、私たちのような大人の世代が言うよりも、皆さんのような子どもたちに近い年齢の方々が、お兄さん・お姉さんとして慕ってくれるほうが、子どもたちからすると一緒に遊びやすいと思います。今、聞いていると、皆さんは、子ども食堂など、さまざまなボランティアについて深く考えられています。このようなことをしたいという思いがあると思いますが、実際に学生たちが単独でボランティアをしようと思ったときには、社会的にこのようなことをしては駄目、こういうことにはこのような手続きが要するというような障害、壁があると思います。これまで、ボランティアを含めて、自分たちがチャレンジしたいと思ったときに、このような壁があった、このような障害があつてやりづらかった、取り組めなかった、諦めてしまったということはありませんか。

L 川崎 : 学生が自ら主体となって取り組むとなった時に、社会的というか精神的に大変だと思いますし、学生自身がボランティアに参加しようという第一歩がなかなか踏み出せないと思います。その点を改善していけたら、学生のボランティア団体がさらに増え、地域をより活性化できるのではないかと考えています。例えば、どこかでごみ拾いのボランティアをしますとか、募金活動のボランティアをしますといったことは、地元ではあまり聞きません。そういった情報が入ってこないということで、だんだんボランティアが身近なものではなくなってきてしまっていると感じます。

L 木村 : 私は高校生のときに中野区の学校に通っていたので、中野駅の周りのごみ拾いボランティアをしていました。ネームバリューもなく始めたばかりの団体なので、怪しい活動をしているのではないかとか、どのような活動をしているのかなど、信じてもらえませんでした。集まって活動していると、何をしているのですかと怪しまれてしまう事もありました。ライオンズクラブなど名前の通ったボランティア団体であれば、活動に参加し易かったり誘いやすくなったりします。そのような点が、ライオンズクラブで行う活動の意味だと思います。

L 河村 : 社会的信用のある団体に属してボランティアが出来るというのは、自分たちもボランティアをしていて気持ちが良いですし、受け入れる側からしても安心できると思います。子ども食堂であれば、安心して依頼できると思います。そのように、お互いが気持ち良くできるという意味で、社会的信用があるライオンズクラブのメンバーとしてボランティアができるということは、非常に大きいと感じています。私の大学はボランティアに対する雰囲気は、恐らくないと思います。しかし、昨年ミスターコンテストに参加していた方が、Instagram のストーリーで、ボランティア団

体に属しているのと一緒に参加しませんかという発信をしていました。今は SNS を使った広告が出来るので、一昔前よりも拡散しやすくなっていると思います。そういった面では、認知している人は多いのではないかと思います。

ボランティアの魅力を伝える

L 坪坂 : 周囲にボランティア活動を広め、一緒にやろうと誘った時の反応として、どのような印象を持っているのでしょうか。

L 木村 : ボランティアの種類によるというのが率直な感想です。私の通っている大学では、掃除のボランティアをしようというとなんか嫌な顔をされることが多いです。あとは、体力が必要なボランティアや、場所が遠くて交通費が出ないものは、あまり参加したくないようです。ただ、子ども食堂の支援では、キャンパスから新宿区までそれほど遠くないので、何人かに話したら、「それだったら塾で行っている事と同じだから」と言ってくれました。自分がしていることを、少し延長した先にあるものであれば、やる気が出るのではないかと思います。



東京新都心 LC シンバ支部 L 木村 智美

L 川崎 : 周りの方々がボランティアにあまり触れていないということもありますが、最近の学生は、何かをすることに対してすぐに見返りを求めてしまう雰囲気があると感じています。ボランティアはお金が出ない、ボランティアをするのは就職活動の時に話せるから、自己 PR に使えるからという形になってしまいます。そういった点ではなく、もっと他にあるボランティアの魅力を伝えていければ、参加する学生が増えていくのではないかと思います。魅力をじゅうぶんに伝えきれていないのではないかと思います。

L 河村 : 大学生は目の前の楽しいことをしたいと思います。将来を考えたり、長い目で見たりということはなかなか出来ないと思います。楽しい事と見返りのない事が目の前あれば、絶対に楽しいほうを取ってしまうのが大学生だと思います。ボランティアの本質、ボランティア自体の良さを伝え切れていないというか、そこを理解出来ていない学生は非常に多いと思います。自分自身もまだまだだと思います。

メンバーが定期的に集まれる場所と時間の確保が問題

L 坪坂 : 3 名のお話を聞いていると、ライオンズクラブ以外で活動されている方もいれば、ライオンズクラブの話を聞いてやりたいと思った方もいらっしゃると思います。まだ活動を始めて日は浅いと思いますが、一緒に活動してみても良いと思う部分があれば、もう少しこうして欲しいという事もあると思います。言いづらいかもしれませんが、こういう点は今までの経験と違って良かった、一緒に活動してやりやすくなったということはあると思いますか。

L 河村 : 授業でオーストラリア連邦のサンゴ礁の問題など、国際的な問題を扱っていましたが、自分たちの当事者意識はなく全く無縁のものだと思っていました。世界を股に掛けるライオンズクラブの一員で会長職を拝命し、当事者意識が芽生えました。分母が地球だというような格好の良いことは言えませんが、ゆくゆくは世界に進出していきたいという話をしていて、現実味を帯びてきました。全く無縁だと思っていた世界的な問題に対して、自分たちが救いの手を差し伸べ、何か一つでも力になれることがあるのではないかと考えるようになってきました。その点については非常に楽しく、興奮し、胸躍るような感覚です。

L 川崎 : 中学校や高等学校で、森林伐採などの様々な環境問題について、授業などで学びました。このようなことが世界で起きているけれども、身近に感じないから対岸の火事ではありませんが、全く関係ないという気持ちでいる人が多いと思います。私自身もそのような感じでした。しかし、ライオンズクラブに入会し、今後このような活動をしていくとなった時に、実際にこのようなことが経験できたら、もう少し自分の身近に感じ、環境問題などにもっと意識を向けていけるのではないかと思います。この点については、ものすごくワクワクしています。



L 坪坂 : 素晴らしいです。ワクワクしてもらえているということを知って嬉しです。ボランティアのイメージは、大変面倒くさいといったものです。自分が生きている間が平和であればそれでいいという考え方は、誰しもが持っていると思います。楽しみとか、自分たちが頑張ることでこうなったらいいという点を身近に考え、ワクワクしているというのは、聞いていて嬉しです。

L 木村 : 私もそのようなワクワク感があります。しかし、ポジティブなことが多かったので、少しネガティブな点についてお話ししたいと思います。今まで私がした事といえば、クラスと同級生や同じ学校の生徒との話でした。全く違う大学の、住む地域も全く違う方々と一緒に活動するとなると、時間を合わせるのも難しいし、全く話し合いが進まず、難しいと思っています。週1回でも月1回でも集まれるよう、会場や人員などをどうにかしたいという思いはあります。

L 坪坂 : 確かにそうです。頑張ってもらうためには、皆さんのミーティングや話し合う時間帯は絶対に必要ですし、そのような場を提供出来るようにしたいと思います。皆さんが空いている時間に集まり、その場にいるメンバーだけでも話し合えたり、自分たちの考えをまとめたり、作り上げたり出来る場をどこかで提供できれば、さらに活動の幅は広がっていくと思います。

見返りを求めず善意を周りに配れる輪を広げていきたい

L 坪坂 : 最後にもう一つ教えてください。皆さんはまだ学生で、来年から就職したり、就職活動を行ったり、これからどんどん大人になっていきます。10年後、20年後には、仕事に一生懸命取り組んでいたり、家庭を持っていたり、立派な大人になっていると思います。皆さんは、大学時代の活動を含めて、将来目指したいことはありますか。仕事についてでも結構ですし、どのような大人になりたいというイメージがありますか。

L 川崎 : 私自身がこのような人になりたいと思っているのは、L 廣川です。大人になり家庭を持ち子どもを持つと、自分の家のことで手いっぱいになってしまうと思います。そのため、あまり世間に目を向けられない気がします。しかし、L 廣川を見ていると、ご自身の家庭もそうですが、さまざまな場所で奉仕活動をなされています。善意をさまざまな場所に配れるというのは、見ていてもものすごく気持ち良いですし、このような大人になりたいと感じます。見返りを求めず、自分から善意を周りに配っていきたり、みんなを巻き込んで行動できたりすることは素晴らしいと思っています。

L 木村 : 日本の社会に貢献できる大人になりたいと思います。どの分野になるかはまだ分かりませんが、海外で働いて帰国した際に海外で勉強したことを還元したいというのが大きな目標です。ただ、日本のためと大きなことばかり考え過ぎてしまい、例えば、職場の友人関係や同僚との関係で悩んでいる人を忘れてしまっはけません。それは地域の責任ある大人ではないと思います。目標は大きくしながらも、行動は地域ベースで、周囲の困っている方々に声を掛けていけるような器の大きい人間になれたらと思っています。

L 河村 : 最近、日本の歴史を調べることが多いです。日本が戦争に負け、そこから GHQ が入り、さまざまなことがあったという事を調べ、本来あるべき姿というか、戦前の日本の姿と今の姿は全然違うと強く感じています。日本を良くしたいと言うと大き過ぎるかもしれませんが、アメリカの文化が流入し日本人本来の良さや道徳心が失われつつあると思います。そういったところを少しでも良く出来ればあとだと思います。自分一人で日本を良くすることは絶対に無理なので、周りを巻き込み小さいことからコツコツと取り組んでいく事が必要かもしれません。まずは自分が率先して動き、輪をどんどん広げていきたいと思っています。もちろん、小さいこともコツコツ積み上げていった結果、最終的に日本が良くなるということに繋がると思います。そういった部分をメンバーと一緒に築き上げられたらと思っています。

L 坪坂: 会長らしい発言です。団体の理念を自分が引っ張っていくことによって、後輩たちが一緒についてきてくれるということでしょうか。素晴らしいです。今、海外のほうが良い、日本は良くないということを言う若い世代の方もいます。私たちでさえ思うこともあります。その中で、日本人ならではの昔ながらの良さを、令和の時代に若い世代が考え、大きな目標を持って頑張ってくれているということは、これからとても楽しみです。聞いていてワクワクしました。ありがとうございます。

中井ガバナーの総評

お話を聞かせて頂き、大変感動しました。河村会長、分母が地球・世界の言葉にはドキッとしました。その中で一個人に何が出来るとかという発想は、自由で素晴らしいですね。1917年にアメリカのシカゴで誕生し、現在は世界では200を超える国と地域で奉仕する48,000のクラブと140万人の会員を有していますが、意外とライオンズクラブの事を知らない方が多いのが現状です。またメンバーが高齢化している為、世代交代が急務と考えています。しかし、他の方々から見るとライオンズクラブは「お金持ち」「敷居が高い」というイメージが先行している状況です。テレビなどで災害地のボランティアをしている学生さんたちを見てみると、「なぜ純粋に奉仕活動をする方々が入会しないのか」と考え、この状況を打破するために今期、学生支部の設立を目指しました。しかし、ライオンズクラブの入会条件が20歳からというのが足かせでしたが、民法改正で成人の規制が20歳から18歳になったことで学生支部が具現化することが出来ました。色々聞いてみるとボランティア活動を希望している学生さんたちが多いことが分かり、奉仕活動時にL字のマークが入ったベストを着た方々が多くみられるようになることはライオンズクラブの知名度を上げることになるし、活躍している状況を見るのが私の夢です。学生生活を充実するためには、学問・知識だけではなく体験や同じ志を持った友達を作る事は大事な事なので、ライオンズクラブをうまくサークル活動として使って頂ければと思います。

東京新都心 LC シンバ支部スポンサー 東京新都心 LC L 廣川貞雄からもコメントを頂きました。

孫が大学に入学する際に「入学したらボランティアを頑張りたい」と言っていたことを聞き、大学生もボランティアに関心があることに気づきました。ちょうど我がクラブで、防災フェアや献血等の奉仕をしているので、それに加えた奉仕活動を大学生で行っていけば、より良い社会になるのではないかと思います。ライオンズクラブという普段は出会えないような人がたくさんいる世界で、ぜひ大学生たちに大きく羽ばたいてもらいたいとの話をしたところ、孫から親戚へ、そのお友達へと思いが繋がったようで、嬉しく思っています。

学生のライオンズに於ける立ち位置は？

基本的には学生に自主的な活動をしてもらいたいと思っていますが、まだ不慣れな部分は私たちが助けていきたいと思っています。学生の自主性を尊重しつつ、私たちがその活動を見守る親・孫のようになることで、ライオンズクラブが学生にとって、第二の家族のような存在になれば良いなと願っています。



1年を振り返って

2021-2022 キャビネット事務局デジタル推進・広報室



副室長 L 小野 健志 東京ピース LC

一年を振り返って

今年も、この時期になってまいりました。本年度は、PR チームがキャビネット直属になり、デジタル推進・広報支援取材・地区ニュース発行と、中井正力 DG キャビネットチームと協力しながら、坂本 純一室長の元で、赤尾嘉晃アドバイザー、坪谷 茂アドバイザー、吉岡 晋 副委員長、桂 太郎 副委員長はじめ、室員の皆さんチーム一丸となって活動してきたと思います。

デジタル推進と致しましては、キャビネット委員会のご承認を受けまして、本室員 坪坂有純 L のご尽力の元、330-A 地区としての公式 LINE を立ち上げることになりまして (本地区ニュースにて QR コードを掲載しております、ぜひ QR コードより LINE 友達追加いただき、お試しください)、中井ガバナーが今期、推し進めていただきました、デジタル推進活動に微力ながら寄与させていただきました。また 330-A 公式ホームページも本室員 石橋 卓磨 L のご尽力により充実してまいりました。

来期は、今期に種を蒔き芽を出した、330-A 地区公式 LINE の運営を軌道にのせるべく、皆様とキャビネット事務局を、よりボーダレスに、タイムレスなコミュニケーション環境を作ってまいりたいと存じております。

本年度、一年間有難うございました。短いですが、感謝の言葉とかえさせていただきます。



副室長 L 桂 太郎 東京世田谷 LC

1 年を振り返って

当委員会はライオンズクラブの情報発信を担っていますが、最も社会の変化に直面する委員会とも言えると思います。特に 330-A 地区は日本のライオンズクラブの中でこの変化に一番早く対応を迫られる地区です。そんな中、非常に熱心な坂本委員長のもと、熱量の多いメンバーの方々と 1 年間ご一緒できたことは貴重な財産です。諸先輩方から引き継ぎ、みんなで力を合わせて作り上げてきた様々なメディアが、今後も引き続きライオンズクラブを盛り上げてくれることを切に願います。



室員 L 河田 淳一 東京平成 LC

一年を振り返って

第 67 回年次大会が終了した辺りから第一回ワクチン接種を受け、コロナとの共存が現実的になり始め、国策としての接種率向上が連日ニュースで取り上げられていました。新型コロナはその後も変異を繰り返し、世界中で猛威を振るっていましたが、国内でも連日過去最多の感染者数を記録していました。そんな中、無観客の東京オリンピックの開催でチケット入手組から多くの落胆の声が響いていたことが印象的でした。やはり現場で直接声援したいですよね。ライオンズメンバーもアクティビティが制約されるなか、知恵を絞って社会貢献を進めているクラブも多く見受けられました。オンラインも便利ですが生身の交流がやはり一番だと痛感しました。年が明け、北京オリンピックの開催中にウクライナ侵攻が勃発し、現代の狂気がリアルタイムで世界中に配信されはじめました。連日ニュースで映画の様な映像が繰り返されていることに憤りを感じております。破壊行為がもたらすデメリットと釣り合う何かが存在すとは思えません。自分に出来る事を模索する日々を過ごしておりますが、気が付けば一年が過ぎ去ってしまいました。来期こそはもう少し頑張ります。



室員 L 茂岡 幹弥 東京白門 LC

今期を振り返りましてということですが私もこの委員会に入りましてあつと言う間に 3 年の月日が経ちました。最初は 330-A 地区の広報で主にクラブの情報発信を担っていると言う程度の認識で軽い気持ちで入りましたが実際に参加してみると 取材・編集・発行の自己完結型のプロ集団だと言うことが分かり 大変な委員会だと思った次第です。特に現場での機材セッティング・撮影・編集・配信技術はそれだけでお金を頂いてもいいと思うようなクオリティで毎回驚嘆しております。と言うことで私自身は余りお役に立てず申し訳ありませんが委員会の皆さんとは仲良く出来ましたので来期は少しスキルアップさせて自分の身の丈の範囲で貢献出来たらと思っています。

来期も皆さんと楽しく活動したいと思っております。よろしくお願ひ致します。



室員 L 石橋 卓磨 東京稲門 LC

デジタル推進・広報室での1年間の活動の中で一番思い出に残っているのは年次大会での「チーム連携」です。3会場での同時中継を遂行する中で、全員が役割分担を全うし当事者意識を持って取り組んでいるメンバーは素晴らしいと感じました。大会結果も「誰よりも早く」という意識で大会中にHPに記事掲載を行い、この委員会の役割と重要性を再認識した時間になりました。1年間、また色々勉強させていただきました。デジタル推進・広報室に関わる全ての方々に感謝申し上げます。



室員 L 岩村 貴成 東京けやき LC

1年間何もご協力出来ず大変ご迷惑をおかけしました。来期は地元クラブで幹事を拝命してますのでしっかり一から雑巾掛けを学び直してからご縁が在ればまたこちらに参画したいと思います。皆さま1年間ご苦勞様でした。



室員 L 細田 未央 東京表参道 LC

一年を振り返って

今期はキャビネット事務局デジタル推進広報室という名のもとでの活動でしたが、広報に関わる委員会には3年間所属させて頂きました。プロフェッショナルな方々が多い中、私は一体何の役に立つのだらうかと思っていた一年目。インタビューを務めたり、編集後記を書いたり、活躍の場を与えて頂きました。二年目は副委員長を拝命し、ガバナーインタビューや特集記事の構想を練る中で、より広報誌のあり方を見つめる機会を頂きました。

そして今期は坂本室長のもとデジタル推進広報室として、内外への情報発信の方法がより洗練された期であったと感じます。個人的にも、二年間で先輩方に多くを教わり育てて頂いたことで、パラリンピック高田千明選手へのインタビューや編集後記作成には自信を持って取り組むことができました。何もできないと思っていた私に自信をつけさせてくださり、仲間の一員に加えて頂きありがとうございました。坂本室長はじめ素晴らしい仲間恵まれ、かけがえのない有意義な活動に携われたことに心から感謝申し上げます。



室員 L 新井 大介 東京新宿 LC

今期もコロナに振り回された一年であったが中井期のテーマ、活動は地に足のついたとても意味深い内容だった。今後の日本に良い影響を及ぼすことが期待される。“減災”、“障害者支部”、“学生支部”、今後も注目され地区NEWSでも特集されることでしょう。

一年間お世話になりました、ありがとうございました。



室員 L 坪坂 有純 東京新宿 LC

一年を振り返って

みなさん、一年間ありがとうございました。

ライオンズクラブに入会し、初めてのキャビネットへの所属が、このデジタル推進・広報室でよかったと心から感じています。この一年間思うように参加することはできませんでしたが、その中で私ができることを丁寧に教えてくださった先輩方には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございます。

330-A地区としての公式LINEを立ち上げではお声がけ頂き、自分自身の得意な分野で少しでもライオンズクラブに貢献できたことがとても嬉しかったです。来期も330-A地区公式LINEの運営を軌道にのせ、多くの会員の方に情報を届けられるように尽力したいと思います。またその他の活動においても先輩方のお力を借りながら、一つずつできることを増やしていきたいです。一年間、ありがとうございました。今後とも何卒宜しくお願い致します。



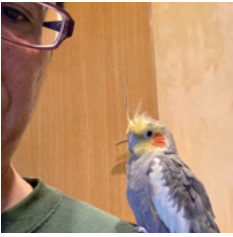
室員 L 三代 勝之 東京スバル LC

1 年を振り返って

ライオンズ 4 年目、室員 3 年目、コロナ禍 2 年目の一年を経験致しました。このたった数年で、ミーティングは対面から Zoom など併用した形が許容されるようになり、手指を介す現金払いから PayPay や LINE Pay など電子決済の浸透が加速し、不動産ではデジタル上の土地が売買され、デジタル空間だけの旅行や飲み・コンサートも成り立ち、デジタル上でしか存在しないアートに高値が付くような世の中に様変わりしました。

なにより、YouTube にライオンズの動画広告が流れていたと室内で共有された際には今年一番驚きました。

寄付やチャリティも数年先、「場所や国、時間を制限しないデジタル」をどのように活かした世の中が待ち受けているのか、妄想を膨らませるとワクワクするとともに 330-A からそのような発信が出来る日に向け、先輩室員の皆様から広報のイロハを学び、半歩ずつ成長させて頂く所存です。



室員 L 石田 賢 東京三鷹 LC

一年を振り返って

「新しい生活様式」が推し進められる中でも、止めることは出来ない「デジタル推進」と「広報活動」。打ち合わせ一つを行うにも、新型コロナの感染状況で場合によってはオンライン会議やハイブリッド会議への対応を強いられていました。大変な思いをしたであろう L 坂本室長の元で、どれだけ協力出来たかを考えると、私自身は反省点が残る一年だったように思います。取材対応や地区ニュース発刊に向けての編集作業、Web サイトの更新、330-A 地区会議でのハイブリッド対応など、多岐にわたる役割を分担してこなしていく室員皆様の技術やパワーが有るからこそ、10 年 20 年先の 330-A 地区の「デジタル」や「広報」へ繋がるものだと思います。

来期以降もご一緒した際には、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。一年間、誠にありがとうございました。



室員 L 山本 元気 東京調布 LC

キャビネット委員会の熱量と和やかさが好きです。

来季はより一層尽力したいと考えております。



アドバイザー L 赤尾嘉晃 東京豊新 LC

IT 推進広報室 1 年を振り返って

今年は新型コロナウイルス感染症対策もあり地区ニュース (1 号のキャビネット 役員写真一覧等を除き) 全てをデジタル版での発行としました。それにより発行までの編集時間、印刷費、送付の費用等を削減する事ができ、2021-22 年が A 地区のデジタル情報発信、元年となったのではと感じています。

(ホームページに掲載されたニュース PDF をプリンターで A4 判印刷可能な仕様に)

また、キャビネット、クラブの代表的な活動が動画

(330-A YouTube チャンネル <https://www.youtube.com/channel/UC0971-ziMfogRKGJc20BgHQ/videos>) でまとめられ、いつでも誰にでも様々なアクティビティを体験できる環境を整え、半歩先を見据えての広報活動を始めたのも今年です。

この 2 年間デジタル化を推進した坂本純一室長の指導力、リーダーシップに敬意を表し、これからも地域社会のニーズを常に探りながら皆にわかりやすい迅速な情報発信を継続できればと思います。地区ニュースはメンバー皆さまの投稿に支えられています。

投稿ページ (<https://330a.jp/contact>)

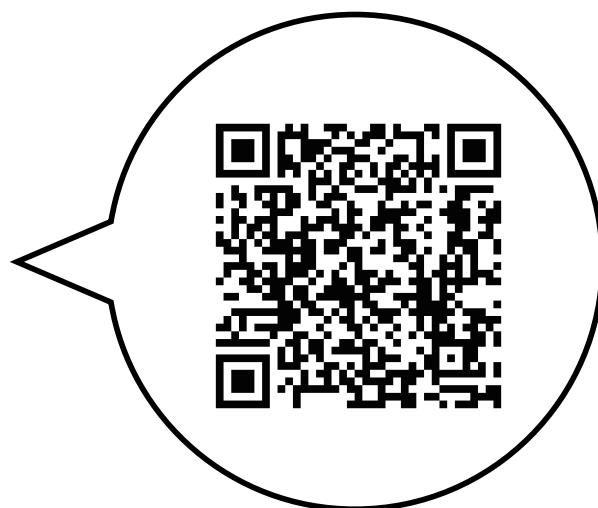
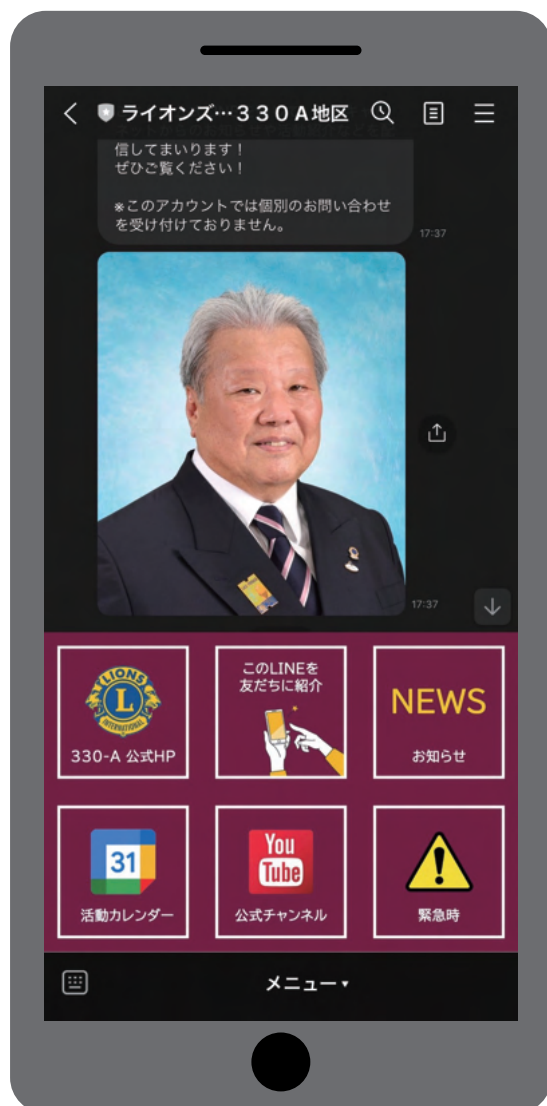


副室長 L 吉岡 晋 東京けやき LC

自由と平和をまもる思いが、大きな力となって何もできない、もどかしさから解放してくれる静謐な時代が来ることを渴望します



ライオンズクラブ国際協会 330-A地区の LINE 公式アカウントがリリースされました！



友だち追加すると、私たちの 330-A 地区の活動や、お知らせ等に関する最新情報が送られてきます。

その他にも、様々な情報や各クラブの活動スケジュール、動画コンテンツ、緊急避難地図などをいつでも公式アカウントから確認することができます。

是非 330-A 地区の仲間たちに拡散をおねがいします。



編集後記

先ずもって、この2期を無事に「330-A地区ホームページ・地区ニュース・Zoom配信」など、大きな事故もなく終えることが出来たことに、330-A地区会員の方に感謝申し上げます。

コロナ禍で我々の生活スタイルは、感染防止を目的として集会や会食などの制限が行われるとともに、テレワークなどオンラインコミュニケーションツールの活用が進んだ期間でもありました。また同時に、キャビネット事務局デジタル推進・広報室のITレベルアップが顕著に見られた一年でした。

今期は初の試みとして地区ニュース第一号を除く紙面は、デジタル版で配信させて頂き、一つの考え方として、紙を利用する → 紙の原料は木材である → CO2を吸収する森林が破壊される → CO2が増加するという枠組みに加えて、紙を利用する→廃棄で焼却が必要になる→CO2を排出する。

故に「ペーパーレス化=環境保全」と言えると思います。

しかし、別の考え方として、ペーパーレス化の利用には電子機器が必要であり、その電子機器は電気を利用しなければなりません。

一例として、各ご家庭及び事業所に毎月投函される「電気ご使用量のお知らせ」内の「ご使用量: 300kwh」としましょう。

2021年8月5日に東京電力エナジーパートナー株式会社から公表された「2020年度のCO2排出係数について」には、2020年度の当社のCO2排出係数は、0.441kg-CO2/kWh※でたと記載されています。

そして、上記の数字を当て嵌めた $300kwh \times 0.441kg-CO2/kWh = 132.3kg$ が一月に電気を使用する事で発生したCO2排出量(kg)となります。

この数字が、大きいのか小さいかは各々の考え方が有りますので一概に判断は出来ませんが、一度皆さんで話し合う題材かもしれません。

先日、東京新都市LCシンバ支部メンバーのインタビューに立ち会う機会がありました。

「純粋にボランティア活動を行いたい」、「ライオンズクラブに対する意識や想い」が高い事に、雷で撃たれたかのような衝撃を受けました。

今号の特集記事はメンバー全員に読んで頂き、奉仕活動を始めようと思ったきっかけを再考する機会かもしれません。是非とも熟読の程、宜しく願い致します。

最後に、キャビネット事務局デジタル推進・広報室メンバーには、大変お世話になりました。当室メンバー大半の生業は、IT・広報とは全く違う仕事をなさっていますが、メンバー誰一人も欠けたら成し得ないミッションの数々でしたが、協力の元無事に終える事が出来ました。次年度も益々パワーアップしたプロ集団で有る事を祈念致します。

キャビネット事務局デジタル推進・広報室 室長 L坂本純一

キャビネット事務局デジタル推進・広報室

L坂本 純一	室 長	東京三鷹 LC	L細田 未央	室 員	東京表参道 LC
L小野 健志	副室長	東京ピース LC	L新井 大介	室 員	東京新宿 LC
L吉岡 晋	副室長	東京けやき LC	L坪坂 有純	室 員	東京新宿 LC
L桂 太郎	副室長	東京世田谷 LC	L三代 勝之	室 員	東京スバル LC
L河田 淳一	室 員	東京平成 LC	L石田 賢	室 員	東京三鷹 LC
L庄司 芳樹	室 員	東京新橋 LC	L森田 雅洋	室 員	東京三鷹 LC
L茂岡 幹弥	室 員	東京白門 LC	L山本 元気	室 員	東京調布 LC
L石橋 卓磨	室 員	東京稲門 LC	L坪谷 茂	アドバイザー	東京平成 LC
L秋月 誠	室 員	東京飛翔 LC	L赤尾 嘉晃	アドバイザー	東京豊新 LC
L岩村 貴成	室 員	東京けやき LC			



電子版